

令和 6 年度 第 1 回 練馬区立学校（園）における教員の働き方改革推進委員会

1 開会

2 委員長あいさつ

- ・オンライン開催へのご協力に感謝申し上げます。
- ・平成 30 年度に設置された本委員会だが、これまで「練馬区立学校（園）における教員の働き方改革推進プラン」により、基本的な推進計画を策定し、教育委員会においては、サポート人材の配置や各種システムの導入などを進めてきた。
- ・学校においては、学校行事の縮減などコロナ禍を契機とした業務の抜本的な見直しを行っていただいた。
- ・今年度からは、土曜授業日の回数や電話機の応答メッセージ設定時刻の変更、通知表の所見を年度末のみにする取組を実施し、教員の負担軽減に一定の成果を挙げているものと認識している。
- ・令和 3 年 9 月に導入された出退勤管理システムでの経年変化を見ると、改善傾向にはあるものの、依然として多くの教員が月 45 時間を超える時間外在校時間の実態にある。特に、副校長や若手教員の時間外在校時間が多い傾向である。
- ・今年度は、教育委員会としてこれまでの取組を改めて見直すとともに、「練馬区立学校（園）における教員の働き方改革推進プラン」を改定し、今後、働き方改革の推進に一層取り組んでいこうと考えている。

3 協議

(1) 令和 5 年度の勤務実態について

○事務局の説明

- ・資料 2 に基づいて説明

○主な意見

- ・教員による所見の作成は、苦勞が多い。通知表の所見が年度末に 1 回となった効果は高い。夏休みに向けた面談の準備や授業の準備などの業務を進めることができたという実感がある。
- ・7 月の時間外在校時間が増えているのが気になる。
⇒分析中であるが、コロナが明けて部活動等の時間が増えたことが一因として考えられる。
- ・毎月、教員に時間外在校時間を数値として示し、見える化を行っている。
- ・教員は、事務負担が減った分、面談の準備や授業研究に充てる時間が増えた。
- ・今年度、時程の見直しを行い、1 時間目の始まりを早め、清掃を週 2 回にした。また、部活動について夏場は 18 時下校、冬場は 17 時 30 分としている。

- ・運動会を午前中開催にしたが、保護者等からの要望は特にない。(中学校)
- ・sigfy や電話機の応答メッセージ設定時刻の変更に対する保護者の要望は特にない。
- ・行事後のアンケートのデジタル化により、集計時間の削減につながっている。
- ・在校時間を短くするのは健康面から大切であるが、やりたいとかやりがいを見いだすことも大切ではないかと考える。
- ・働きやすさや働きがいに関するアンケートができるとういのではないか。
⇒ライフワークバランスを整えながら、子供と向き合う時間を確保していくことを大切にしたい。
- ・授業準備を家で行う教員より、環境面からも学校で行う教員が多い。
- ・初任者は授業準備をしっかりとしないと、次の日が不安であるとして、時間外在校時間が多くなっている。
- ・電話の応答メッセージ機能は、保護者から電話がかかってこないという安心感が生まれる。
- ・副園長は、会計年度任用職員の多さや事務処理の複雑さに課題を抱えている。
- ・幼稚園では、特別な支援を必要とする子供が4割程度おり、就学支援に向けた手続きに時間を要している。
- ・部活動等で土日に仕事をしていることも多いが、資料に反映されているか。
⇒土日も出退勤管理システムを実行していれば反映されている。

(2) 練馬区立学校(園)における教員の働き方改革推進プランの改定について

○事務局の説明

- ・資料2に基づいて説明

○主な意見

- ・サポート人材の配置やICT支援員の配置拡大も非常にありがたい。
- ・不登校別室指導支援員がいるとよい。
- ・教員が学校徴収金になるべく関わらなくて済むような体制の構築が必要である。
⇒給食費が無償になったことも踏まえ、他自体の取組も踏まえながら今後検討を進めていく。
- ・教材費の私費負担と公費負担をより明確にしていきたい。(キャンプファイヤーの薪代、調理実習の料金など参加人数分で割り切ることが難しいもの)
⇒現在、ガイドラインを策定中である。
- ・部活動指導員の配置は、非常に効果的である。本校では、兼部可能なトレーニング部に部活動指導員を配置し、それぞれの運動部活動参加者はウォーミングアップとしてトレーニング部で活動する。教員がその間に業務や会議を進めることができる。
⇒外部団体や部活動外部指導員に働きかけ、今後も部活動指導員の増員に向けて取り組んでいく。
- ・副園長補佐も配置をお願いしたい。
- ・産休育休教員などの人材確保をお願いしたい。
⇒現在は正規教員の確保も難しい。人材確保は、喫緊の課題であり、今後も検討し

ていく。

- ・サポートスタッフの増員について、大学との連携により、見守りを行っていただいた経験がある。ただし、ボランティアであった。
- ・大学との連携については、今後の教員確保にもつながる。
- ・授業準備に時間がかかることについて、区中研等の際にベテラン教員と若手教員の情報交換の時間を設けることは、非常に効果が高い。
- ・授業に関わる資料を学校間でデータ共有することができるとよい。
⇒授業準備への支援という手だてについては、区中研等の力を借りながら検討していきたい。
- ・プールの管理や熱中症対策について、教員は非常に気を遣っている。
- ・ICTの活用について、年度更新作業を学校ではなく、区で一括してできるとよい。
- ・学校公開での二次元コード活用による受付業務の縮減ができるとよい。
- ・教員自身が勤務実態をつかむことができるような、PCが立ち上がると自分の勤務状況が確認できるシステムがあるとよい。

(3) その他

- ・特になし

4 事務連絡

- ・第2回では、本日の意見を踏まえ、推進プランの改定案についてご協議いただく予定である。

5 閉会

※傍聴人は2名